

## 巧妙化する特殊詐欺に要注意

昨年に比べ綾部市での交通事故が増えています。運転手は、子どもや高齢者を見かけたら速度を落とすなど、優しさやゆとりをもった運転をお願いします。横断歩道は歩行者優先です。信号機のない横断歩道を渡ろうとする人がいたら、必ず一時停止してください。

また、特殊詐欺も多発しています。今年ですでに、綾部市だけで1,000万円近い被害があります。6月には、高齢者がキャッシュカードをだまし取られ、現金が引き出される事件が発生しました。手口



は巧妙化し、本人だけでは防ぎ切れません。おかしいと感じる電話などがあれば、いつでも綾部警察署にご相談ください。

綾部警察署  
署長 鶴見威之さん



12月1日、年末の交通事故防止府民運動がスタート。市内飲食店を回り、飲酒運転根絶への協力を呼び掛けるなど、関係団体による啓発活動が実施されました

### 安全運転管理者



一定台数以上の自動車を使用する事業所等は、交通事故の防止や道路交通法を守るために、安全運転管理者を選任することが法律で定められています。

## 雪道のスリップ事故に注意!



冬季は、積雪や路面の凍結によるスリップ事故が起きやすくなります。運転時は速度を控えめにし、十分な車間距離をとって▽急発進▽急加速▽急ハンドル▽急ブレーキは避けましょう。特に▽橋の上▽カーブ▽坂道▽トンネルの出入り口などは凍結しやすいため、慎重に走行しましょう。



**詐欺の電話に注意**  
特殊詐欺は、自宅の固定電話にかかっています。市内でも、市の職員をかたり「保険料の還付金がある」といった詐欺の予兆電話が多数発生しています。「自分はだまされない」と思っている、会話をすると相手のペースに乗せられ、冷静な判断ができなくなる恐れがあります。

電話による詐欺被害を防ぐためには、留守番機能や防犯機能付き電話機が有効。綾部防犯協会は、市内の府電気商業組合加盟店で防犯機能付き固定電話機や取付機器を購入した人に補助を行っています。詳しくは同会事務局、綾部警察署 ☎(43)0110へ。



年末が近づくと、人や車の動きが慌たしくなり、交通事故の発生や年末年始の隙を狙った犯罪が増える傾向があります。いま一度、交通ルールや交通マナー、防犯対策を確認しましょう。

安全・安心な年末年始に向けて

# 高めよう交通安全・防犯意識

### 午後4時からライトの点灯を

令和3年中、市内で15件の人身事故が発生。人身事故は秋から冬の薄暮時(日没の前後1時間)に増加しています。これは、日没が早まり、運転手と歩行者の発見がお互いに遅れることが原因と考えられます。車を運転するときは、午後4時(日没前)からライトを点灯して、視界を確保すると同時に、自分の車の存在を歩行者などに知らせましょう。歩行者は、反射材を身に着けるなど運転手から見えやすい工夫をすることが、交通事故防止につながります。

### アルコールチェックが義務化に

本年4月、道路交通法施行規則が一部改正され、安全運転管理者(左上参照)によるアルコール

チェックが義務付けられました。事業所等の安全運転管理者は、目視などで運転者の酒気帯びの有無を確認し、その記録を1年間保存することが求められています。年末年始は飲酒の機会が多くなります。「飲酒運転は絶対にしない、させない」を一人ひとりが徹底し、職場や家庭、地域ぐるみで飲酒運転の根絶を目指しましょう。

### 自転車はヘルメットの着用を

自転車は道路交通法上、軽車両に位置付けられています。そのため、車道の左側通行が原則です。右側通行は違反になるだけでなく、対向の自動車や自転車などと正面衝突する可能性があり非常に危険です。また、今後、全ての自転車利用者に対し、ヘルメット着用が努力義務になります。年齢を

## 返礼品・ふるさとと産品事業者募集

# 自慢の一品を全国に届けませんか

市は、ふるさと納税の返礼品とあやべ特別市民に送る「ふるさと産品」を募集しています。市内で生産した商品などを登録しませんか。

返礼品として募集しているのは、市内で生産している農産物や加工品、工芸品などの商品。また、宿泊体験などのサービスも登録できます。

市は、インターネット上の5つのふるさと納税支援サイトに参加。返礼品を登録すると、ふるさと納

### 全国に商品をPRする機会に

生まれ育ったふるさとや応援したい自治体に寄付できる「ふるさと納税」。本市は▽地域振興▽水源の里振興▽世界連邦推進▽社会福祉▽教育振興▽新型コロナウイルス対策の一分野で寄付を受け付け、寄付の趣旨に沿った事業に活用しています。市外の寄付者には、本市の特産品などを「返礼品」として送付。返礼品を通じて本市の魅力をもっと多くの人に知ってもらう機会にもなります。ふるさと納税による寄付は年々増加し、昨年度は、17777件1億5631万3千円。6年連続で過去最多額を更新しています。

### 昨年度の寄付額は過去最多

## ふるさと納税



本年度のふるさと産品の一例。「ふるさとを思い出しながら楽しみたいと思います」と人気です

「あやべ特別市民制度」は、本市出身者やゆかりのある人、関心のある人に市を応援してもらう制度です。会員には年3回の特産品に加え、会報（ニュースレター）や市内飲食店の割引券などを送付しています。特産品の送り先は、会費負担者以外の住所も指定でき、友人や親戚への贈り物として

### 綾部の特産品などを送付

## あやべ特別市民制度

税支援サイトに商品が掲載されるので、全国に広くPRできます。事業者は、広告費などの費用負担

一定数の売り上げが見込める同制度の会員は、本年11月末時点で全国各地に約1600人。会員に送る産品は、一定数の売り上げが見込めます。また、取り寄せ注文やリピーター獲得にもつながり、商品を全国にPRすることができます。

応募受付は1月13日（金）まで。大口生産に対応できない場合も、まずは一度、秘書広報課☎4204へご相談ください。

### 一定数の売り上げが見込める

今回募集するのは、来年度の会員に送る「ふるさと産品」です。本年度は、綾部産新米や菓子、加工品など27事業者の29品を採用。産品の発送は、地域の活性化にも寄与しています。

も人気で、幅広いPRが期待できます。

今回募集するのは、来年度の会員に送る「ふるさと産品」です。

本年度は、綾部産新米や菓子、加工品など27事業者の29品を採用。

産品の発送は、地域の活性化にも寄与しています。

もなく、新たな販路拡大のツールとして期待できます。返礼品の登録は随時受け付け中。返礼品にできるものには、一定の条件があります。まずは一度、企画政策課☎(42)4217へご相談ください。

## 原子力災害に備えて

# 京都府原子力総合防災訓練を実施



1



2



3



4



5



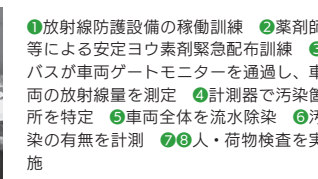
6



7



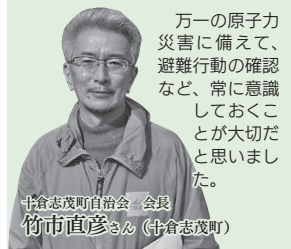
8



9

※「全面緊急事態」となった場合、綾部市民は、放射性物質や放射線の影響を低減するため、屋内退避してください。本市の原子力災害住民避難計画では「全面緊急事態」が発生しても、まずは屋内退避することとしています。今回の訓練では避難手順を確認するため、より被害が拡大した場合を想定し、バスを利用した住民避難訓練を実施しました。

### インタビュー



〒志茂町自治会 会長  
竹市直彦さん (〒志茂町)

万一の原子力災害に備えて、避難行動の確認など、常におくこと大切だと思います。

市民69人が避難の流れを体験  
訓練は、福井県を震源とする地震により、高浜発電所で放射性物質が放出され「全面緊急事態」が発生したと想定。情報伝達訓練や住民避難訓練、安定ヨウ素剤緊急配布訓練などを実施しました。訓練には、同発電所からおおむね半径30キロメートル以内の住民約5700人と38の関係機関約600人が参加。市内からは、口上林地区8自治会の住民69人が避難訓練をしました。参加者は、放射線量を測定するスクリーニングや流水除染など、原子力災害による住民避難の流れを確認しました。

府と本市を含む5市2町は11月27日、与謝野町の大江山運動公園と野田川わくくばるで、京都府原子力総合防災訓練を行いました。